

粘り強い運動で実現された府民要求があるが、 補正予算の中心は大企業奉仕



三木一弘 議員

三木議員は七月八日(日)に放映されたKBS「政治を語る」六月定例府議会から」に出演しました。

一方引きつづき大企業奉仕、民間活力の導入、臨調「行革」が中心となっている」と府民の立場からみて、今補正予算を正確に評価しました。

この三木発言に対し、他党派から「府民の要求が全て共産党ではない」「何でも共産党の成果と、我田引水的なことを言っている」など意見がありましたが、三木議員は、「府民の要望と結びついた道理ある主張を言ってきたというまでのこと」と党議員団の立場をきっぱりと示しました。

環境破壊の根本的要素 因こそ説明すべき

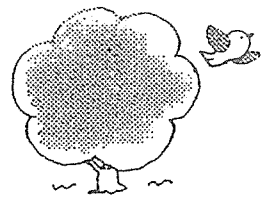
つづいて環境保全の問題について討論がすすめられ、各党派が「緑の基金」など先をみた事業が今回の予算にもりこまれている」などと礼賛する中、三木議員は、「我が議員団が環境問題で要求してきたものが今回実現されているが、酸性雨の問題などについては、それが発生した原因を説明すべきで、宮津火電や舞鶴石炭火電にメスをを入れるべき」ことを明らかにしました。

また、知事が鴨川上流のダム建設断念表明に関連して、「今回の断念表明

は政治的立場をこえた府民的运动があったからこそ。今後、上流での乱開発の規制、鴨川の改修については、情報公開、府民参加の改修対策をすべき」

と発言しました。

最後に福祉対策について、各党派が手ばなしで評価する中、三木議員は、「福祉の充実には十分配慮されているが、老人医療の無料化などは放置したまま。また、評価は決算でどうなったかで評価すべき」と明確にこたえました。



米第七艦隊旗艦「ブルーリッジ」の 舞鶴入港に反対する申し入れ

一九九〇年七月二十一日

アメリカ第七艦隊の旗艦「ブルーリッジ」が、来たる七月二十五日から二十七日まで舞鶴港に入港することが明らかになった。この入港は、アメリカ海軍が日本の海上自衛隊と共同で、日本海において訓練を行うためのものであり、日本の自衛隊からは護衛艦「しらね」が参加することになっている。

この日米共同演習は、日米軍事同盟に基づいて実施されている。しかし、最近の「米ソ接近」政策のなかで「ソ連の脅威」に対処するためという主張が破綻して、この軍事同盟自体が存続の根拠を失っており、日

本防衛とは全く無縁なものであることが明らかになってきている。ところがアメリカ政府は、日米軍事同盟をその世界戦略の主体と位置付け、日本に軍拡を迫り、日本を核戦争と通常戦争の第一線基地として強化しようとしており、日本政府もこれに積極的に応じている。今回の訓練もこの一貫としての核の近代化と「海洋戦略」の強化の表れであり、日本と世界の平和を願う多くの府民の願いを踏みにじるものである。わが議員団は、これまでもから舞鶴自衛隊基地の強化や米艦船の入港に反対し、知事に申し入れを行ってきた。

KBS京都 政治を語る

